

【農業生産の振興(県産農産物の消費拡大)】

～「田んぼの学校」須賀川市立白江小学校での取組み～

1 「田んぼの学校」とは

田んぼや、水路、ため池、里山などを遊びと学びの場として活用する環境教育のことで、行政、学校、土地改良区などが主体となって地域独自の活動を行うなど、全国的に取組みが広がってきている。

2 「田んぼの学校」の目的

古くから農業の営みの中で形づくられてきた田んぼや水路、ため池、里山などは、今では農村の自然環境の重要な要素となっている。

「田んぼの学校」は、これらを遊びと学びの場として活用することにより、農業農村整備事業で整備した農地と土地改良施設への理解を深めると共に、農業や農村が持つ多面的機能（生物生態系保全機能、やすらぎ機能等）を通して、感性豊かな子どもたちに環境に対する理解を深めてもらうことをねらいとしている。



「田植え」



「生きもの調査」

3 取組内容

当事務所では、須賀川市立白江小学校の全校児童 165 名が、無農薬・無化学肥料の田んぼとその周辺において、田んぼの仕事、生きものとの関わりについて学ぶとともに、その活動を通じて地域の人々との関わりを深めた。

20年度の年間スケジュール

- ・ 4月17日 開校式、看板設置
- ・ 5月 1日 米ぬかEMペレットづくり

- ・ 5月 8日 田植え、肥料まき
- ・ 6月 17日 田の草取り
- ・ 6月 23日 田の草取り、生きもの観察
- ・ 9月 25日 稲刈り・はせがけ
- ・ 10月 14日 いなごとり
- ・ 10月 21日 脱穀・粃すり
- ・ 10月 25日 収穫祭
- ・ 11月 4日 わら縄づくり
- ・ 1月 21日 田んぼで遊ぼう
- ・ 2月 10日 学習のまとめ（修了証書授与）

4 取組みの効果

子どもたちが、年間を通して土作りから収穫までの稲作体験をすることで、「農業の大切さ」や「田んぼのはたす役割」を理解することができた。

また、「いなごとり」や「わら縄づくり」など昔から地域で行っていた伝統行事を体験することができ、行事の果たす意味や作業を通じて地域の方への敬意と信頼関係が築かれ、子供たちが農村地域の人との関わり方の重要性に気づくことができた。

子どもたちからは、農作業の大変さだけでなく、楽しかったとの感想が多く寄せられたように、これからの地域を担う子供たちに農村地域の楽しさ、大切さを伝えることができた。

田んぼの学校は、継続していくことが重要といえるが、事業としては3年間という期限がある。しかし、学校を中心として、この活動への理解と協力体制づくりが図られ、今後も同様の活動が継続されることになった。



「いなごとり」



「田んぼで遊ぼう」鬼ごっこ

5 国、地方公共団体等の施策支援との関わり

県：うつくしま田んぼの体験学習事業

6 今後の課題

この活動は地域の協力が不可欠なものであるため、協力体制を築いていくことが大きな課題である。また、活動を実施していくためには、学校を含め協力者の統一した理解が必要であるため綿密な打合せが必要である。



「開校式」



「米ぬか EM ペレット作り」



「草取り」



「稲刈り」



「脱穀」



「収穫祭」